



「胸をはれ 山の^{おお}巨きに 負けまいぞ」

本校の校門脇には、この句を刻んだ川柳碑があります。これは、創立40周年を記念して、地元有志、本校旧職員、当時の教職員の方々の御協力により建立されたものです。

この句を詠まれた方は、延永 忠美（のぶなが ただみ）氏であり、また本校にふさわしいこの句を選んでくださったのは、地元 弓削川柳社の 長谷川 紫光 先生です。延永氏は地元久米南町のご出身の一級建築士で、昭和26年に本校が“三本木”から現在地へ移転する際に、校舎建築の殆ど全てを設計・監督されるなど、本校にとって縁の深い方でもあります。

この句には、本校を卒業して社会で頑張っておられるOBの方々、またそれを見守っておられる当時の保護者や教職員、そして私たち“弓削高生”を長年に渡り温かく見守ってくださっている地元の方々など、多くの人たちの“思い”が込められています。

残念ながら本校は閉校となりますが、この句は将来も変わらずこの場所で、多くの人たちの思いと“弓削高魂”を刻んで、卒業生の皆さんを見守り、励ましてくれるはずです。